

# フランス海外県レユニオン島の火山洞窟

## Volcanic Caves of the Reunion Island

本多力

(HONDA, Tsutomu NPO 法人火山洞窟学会所属 東京都在住)

### 1. はじめに

レユニオン島はマダガスカル島の東に位置する直径 80 km ほどのインド洋にある火山島でフランスの海外県である。パリから毎日直行便が飛んでおり 10 時間ほどかかる位置にある。レユニオン島はホットスポット上にあり島の西部にあるル・ピトン・デ・ネージュ火山(標高 3069m)と島の東部にあるル・ピトン・デウ・ラ・フルネーズ火山(標高 2631m)の二つから構成される玄武岩質の溶岩島である。現在盛んに活動を続けているのはル・ピトン・デウ・ラ・フルネーズ火山であり東部のインド洋側に頻繁に溶岩を流し

ている。図 1 にレユニオン島の地質図を示す。

レユニオン島に人間が住み始めて 350 年になるがその間知られている噴火だけで 250 回ある。十九世紀から二十世紀に移るころ科学的観測体制がしかれたが火山観測所が造られたのは 1979 年である。それ以来どんな噴火も記録しており、噴火の予兆は観測できるようになっているがその噴火の正確な日時まではまだ予測することは出来ない。

表 1 に最近の溶岩流を流した噴火年代を示す(最近の IGN の地図(参考文献 1)に記載されているものに限った)。地図にはまだ出てないが最近の噴火は 2008 年及び 2010 年 10 月には頂上の南部 2000m

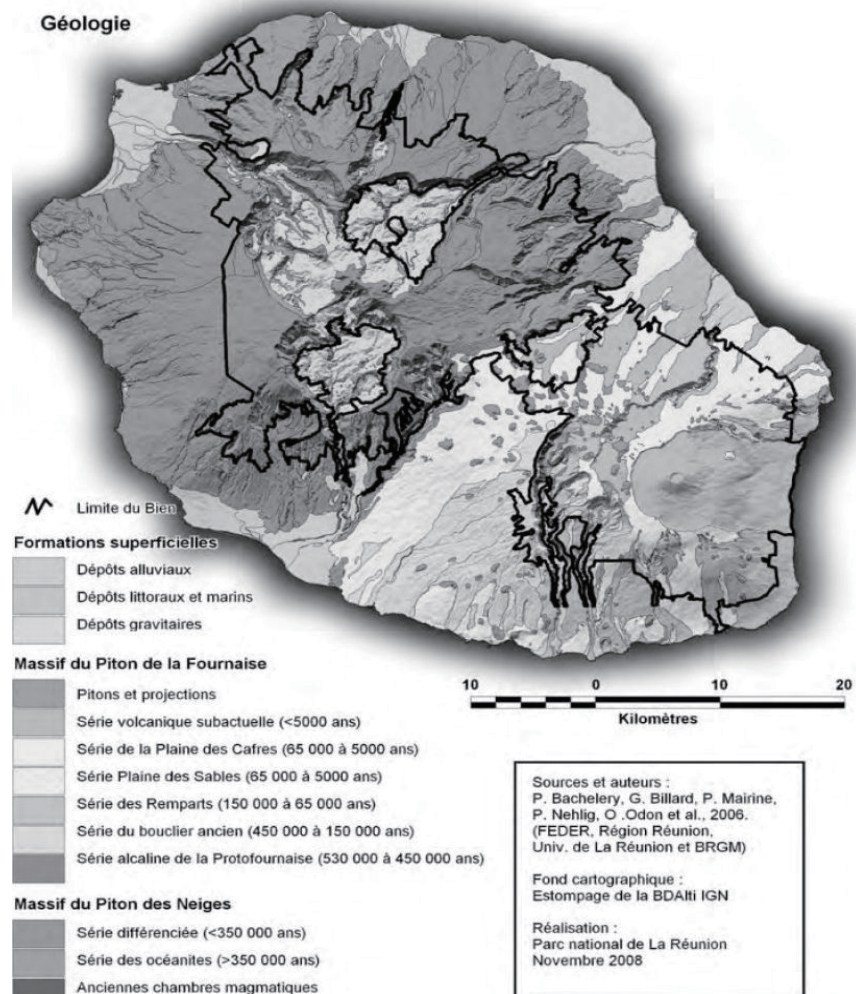


図 1 レユニオン島の地質図  
(参考文献 2 より)